

日本医師会インターネット生涯教育協力講座＜外来で遭遇する皮膚疾患とその対応＞

外来で遭遇する皮膚疾患とその対応 - 2

代表的な皮膚疾患
頻度の高い皮膚疾患ベスト 10

● 総監修 ●

大阪大学大学院医学系研究科

情報統合医学皮膚科学講座

片山 一朗

代表的な皮膚疾患 頻度の高い皮膚疾患ベスト 10

【1】頻度の高い皮膚疾患ベスト 10

- 日本皮膚科学会が行った全国調査によると、皮膚科を受診する患者さんの上位10疾患で全体の64.64%を占めている。
- かかりつけ医が効率的に皮膚疾患の診療を行うため、頻度の高い疾患ベスト10を紹介する。

日皮会誌 本邦における皮膚科受診患者の多施設横断四季別全国調査 119(9) 1795-1809, 2009

【2】10位～6位

順位	疾患名	割合
6	ウイルス性疣贅	4.49%
7	乾癬	4.43%
8	接触皮膚炎	3.92%
9	ざ瘡	3.60%
10	脂漏性皮膚炎	3.28%

- ・「9位：尋常性ざ瘡」はコンテンツ5で解説。
- ・「6位：ウイルス性疣贅」は、かかりつけ医で診療する機会が少ないため省略。

■ 10位：脂漏性皮膚炎

- 症状（成人）：頭部の粒糠性のフケ、生え際の落屑性紅斑に始まり、紅斑は頭部全体にまで及ぶことがある。
- 原因：皮膚に常在するマラセチアへの過敏反応。
- 治療：軽症例は抗真菌外用薬を用い、重症例は初期にステロイド外用薬を使用し、炎症を軽減させてから抗真菌外用薬へ徐々に切り替える。



■ 8位：接触皮膚炎

- 外来性の刺激物質や抗原が皮膚に接触した時に湿疹反応を起こす「かぶれ」。
- 治療：刺激性とアレルギー性に分類され、いずれも原因を除去する。
- 薬物療法：ステロイド外用薬を用い、乾燥症状が認められる場合には保湿剤も併用する。



■ 7位：乾癬

- 難治性の慢性炎症性角化症であり、中年に好発する。
- 原因：不明。
- 症状：銀白色で厚い鱗屑を有する紅斑局面が認められ、肘、膝、頭部などに好発し、痒みを伴うこともある。
- 関節の痛み、腫れなどを伴う場合があり、関節破壊の可能性がある。
- 治療（軽症～中等症）：ビタミンD3外用薬とステロイド外用薬の配合剤などを中心に用いる。
- 治療（中等症～重症）：シクロスポリンなどの経口薬や生物学的製剤、関節症状がひどい場合は生物学的製剤を使用する。



【3】5位～1位

順位	疾患名	割合
1	その他の湿疹	18.67%
2	アトピー性皮膚炎	9.98%
3	足白癬	6.49%
4	蕁麻疹・血管浮腫	4.99%
5	爪白癬	4.79%

- ・「1位：その他の湿疹」とは、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性皮膚炎、手湿疹を除いた湿疹。コンテンツ3で解説。
- ・「5位：爪白癬」、「3位：足白癬」はコンテンツ5で解説。
- ・「2位：アトピー性皮膚炎」はコンテンツ4で解説。

■ 4位：蕁麻疹・血管浮腫

- 痒みを伴う突発性の膨疹で、丘疹とは異なり、しこりはない。
- 原因：肥満細胞からのヒスタミンなどの遊離により、真皮の浮腫と痒みが生じる。
- 病型：自発的に出現する特発性蕁麻疹、特定の刺激ないし条件が加わった時に生じる誘因のある蕁麻疹、皮膚や粘膜の深部に浮腫が生じる血管浮腫に分けられる。
- 診断：痒みを伴う赤い発疹が突然生じ、短時間で発生と消失を繰り返したり、形が変わる。
- 治療：特発性蕁麻疹に対して非鎮静性抗ヒスタミン薬を服用する。誘因のある蕁麻疹に対しては、アレルギー性では原因を特定して避け、物理性蕁麻疹では物理刺激を避ける。



蕁麻疹の治療	
特発性蕁麻疹	● 非鎮静性抗ヒスタミン薬を服用する
誘因のある蕁麻疹	● アレルギー性では原因を特定して避け、物理性では物理刺激を避ける
血管浮腫	● 咽頭浮腫による気道閉塞の場合は気道確保する ● 非鎮静性抗ヒスタミン薬の内服や静脈注射などを投与する